

令和5年度 いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校 (三豊市立比地小学校)

2 実施の内容

(1) 児童会主催の活動

児童会が主催で行う「比地小芸能自慢大会」は、8年前から続いている全校生が楽しみにしている活動である。体育館のステージで、歌やダンス、ピアノ、縄跳び、恐竜クイズ等いろいろな得意なことや頑張っていることを全校生に披露している。

今年度1回目の開催を前に、児童会役員で今年度の実施方法や改善点を話し合わせた。昨年度までの反省から、発表者にインタビューし、全校生から今まで以上に称賛される場にしたという意見が出された。

(2) 児童主体の委員会活動

昨年度成果を上げた児童主体の委員会活動を、今年度も推進した。学期始めの委員会活動で、全校生が笑顔になる楽しい比地小学校にするために、各委員会で何ができるのかを話し合う時間を確保した。

① 放送委員会の取り組み

昨年度実施した、児童主体の取り組み「比地ラジオ」について振り返った。意欲が高まっている児童に、担当教師の具体的な評価を加えることで、昨年度よりレベルアップした「比地ラジオ」にしたいという思いに児童全員がなった。

すると、児童から、先生以外からもゲストを招きたいや、いろいろなクイズをして全校生を楽しませたいという意見が出た。そこで、昨年度よりレベルアップした「比地ラジオ」を放送することになった。

② 情報委員会の取り組み

年度初めの委員会活動で、学校が楽しくなるために、委員会として自分たちが取り組んでみたいことを話し合う時間を確保した。その中から、特に自分たちが力を入れて取り組みたい内容を話し合っ、以下のことに取り組んだ。

- ・図書室を多く利用した児童を称賛する「月一読書甲子園」
- ・多くの児童に本に触れてもらう「出張読書」

3 成果

(1) アンケート結果の変遷

(各項目とも4段階評価の平均値)

項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5.6月	R5.12月
A 自尊感情	①自主性、生活の自信	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3
	②学習意欲、学習の自信	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3
B 居場所づくり	①学級に関すること	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7
	②学習に関すること	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4
C 絆づくり	①自分からのかかわり	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
	②他者からのかかわり	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4
D 家庭や教師に関すること	①家庭へのニーズ	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6
	②教師へのニーズ	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7

- ・すべての項目において、平均値が3.3ポイントを上回っている。自尊感情が他の項目に比べて低い、令和3年度以降上昇している。
- ・評価が高い項目は、「学級の居場所」「教師へのニーズ」である。『任せ・見守る』『認め・称賛する』を合い言葉として、全職員が共通理解して取り組んでいる成果である。

(2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

○ 放送委員会の活動

① 交流活動前（事前の話し合い、準備）

- ・児童から、給食時にゲストを招き、インタビューをしたいとの思いが出てきた。
- ・インタビューに慣れてくると、全校生にアンケート調査を行い結果を発表したり、毎日のラッキーナンバーを発表するビンゴ、学校クイズ等、さまざまなアイデアが出てくるようになった。

② 交流活動

- ・初めはリーダーシップを発揮できる6年生が中心になって活動し、しだいに5年生へと広がっていった。
- ・管理職への事前許可などは担当教師が行ったが、管理職へのお願いや、ゲストへの交渉は、児童自ら行くようにし、自分たちで進めていることが実感できるようにした。
- ・幼稚園の園長をゲストに呼ぶために、児童が自ら幼稚園に出向き、交渉や事前準備を行った。幼小交流にもなるなど、活動の幅が広がっている。

③ 活動後の振り返り・新たな活動

- ・毎月の委員会活動時に、振り返りを行い、次回のゲストや取り組みを考えたりしている。
- ・6年生を中心に、5年生とペアを作ることで、6年生のリーダーシップの発揮、来年度に向けての準備を行っている。
- ・イントロクイズ・放送ビンゴ・放送ハロウィン・ボイスクイズ・アンケート調査など



○ 情報委員会の活動

① 交流活動前（事前の話し合い、準備）

- ・年度初め、委員会のスタートに、学校が楽しくなるために、取り組んでみたい活動を話し合った。

② 交流活動

- ・本の貸し出しを増やすための取り組みとして、「月一読書甲子園」を開催し、月ごとに一番多く本のかりかえを行った児童に手作りのしおりをプレゼントしたり、出張図書（移動図書室）を行ったりした。

③ 活動後の振り返り・新たな活動

- ・児童が自発的に考えた様々な取り組みにより、本の貸し出しが増え、達成感を感じた様子が見られた。
- ・来年度には、さらに全校生に本に親しんでもらえるように、本に関するクイズを作る活動がしたいという意見が出ている。



(3) 成果と課題

○ 児童主体の委員会活動

自分たちが考え工夫した活動により、全校児童が盛り上がり、やる気と自己有用感と達成感が高まった。また、全校児童や教師から期待されていることを感じ、新しい取り組みに挑戦してみたいという意欲も高まった。

活動が軌道に乗ってきており、教師の助けを必要としない自走集団になった。委員会活動は、毎年メンバーが変わる。来年度からも同じ思いで活動が続けられるかは分からないが、今年度の委員会の活動にあこがれて希望する児童が多くなるという好循環が生まれている。意欲の高い児童が集まり、次年度さらに発展した活動になると思われる。